

第15回（公社）日本鍼灸師会全国大会in静岡 参加報告

令和元年11月23日～24日 ホテルコンコルド浜松

「終わっていく命とどう向き合うか」

愛和病院副院長 平方真先生のお話を聞いて

死を迎えるに当たって、二通りの人がいるそうです。

不安におびえる人と、感謝の気持ちになる人。

不安におびえる人とは、死を迎えるに当たり、

「何で、自分だけが！」「医者腕が悪いから治せないのでは？」

「まだ死にたくない！」「痛い思いをするのは嫌だ！」などと思う人たち。

一方、感謝の気持ちになる人は、

「みんなが私の事を心配してくれてありがたい。」

「先生の顔を見るとホッとします。」

「お薬のお陰で軽い痛みで済んでいます。」などと思う人たち。

この二つの考え方の違いは、その後の経過に大きく影響するようです。

日常の臨床に於いても、「不安」と「感謝」、「ポジティブ」と「ネガティブ」、

この捉え方の違いにより、治療の経過も大きく違って来る様です。

長谷川栄一